

大学改革を理解するための大学設置基準解読

大津 正知（茨城大学 情報戦略機構 助教）

講師略歴

専門は高等教育マネジメント。九州大学理学部物理学科卒業後、大学院で科学史を専攻。これまで九州大学、中京大学に勤務。教育改革を中心とした大学改革、FD・SD、大学評価、競争的資金の獲得等の教学マネジメントに関わる。大学の制度や歴史、組織文化に着目しながら業務を行ってきた。2022年度から現職。現在はIR等を中心に従事。著書に『大学の組織と運営』（分担執筆）など。

プログラム概要

令和4年度の大学設置基準改正に関して、各大学で教職員が協働して対応をとられていることと思います。大学の取組が効果を発揮するためには、設置基準を表面的に把握するのではなく、改正の経緯や設置基準そのものの性格を深く理解し、学内で認識を共有することが大切です。

設置基準は「必要な最低の基準」とされる一方、大学には「水準の向上を図ること」が求められており、実は複雑な性格をあわせもっています。このような性格をもつに至った歴史的背景を探ったり、単位制度、教員組織等の具体的な条文を掘り下げたりしながら設置基準改正の核心に迫ります。設置基準を深く読み解くことで、目指すべき大学改革について、受講者それぞれがどのように向き合うべきかを考える契機になればと思います。

形式は講義中心としていますが、様々な問いを踏まえながら、受講者同士で意見交換をしてもらう時間を設ける予定です。

準備物・事前課題

現行の大学設置基準（特に第1章から第7章まで）に目を通しておいてください。

主な受講対象者

- ・大学改革、特に教育の質保証や教学マネジメントに携わる教職員
 - ・単位、教員組織等の教育制度に関心のある教職員
 - ・大学設置基準の歴史的変遷に興味のある教職員
- ※役職、職歴、経験年数は問いません。

到達目標

1. 大学設置基準に関して、役割、特質、由来などの基本的な事項を説明することができる。
2. 大学設置基準の解釈を踏まえた学内の制度改革に際し、課題解決の方法を提案することができる。
3. 法令や制度の本質的な意味や隠れた機能を理解する姿勢を身につけることができる。